



東海市地域強靱化計画

令和5年度（2023年度）の進捗状況



東海市

令和7年（2025年）1月

〈目次〉

1	計画の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	計画推進の進捗管理・・・・・・・・	1
3	リスクシナリオごとの進捗状況・・・・・・・・	2
4	「東海市地域強靱化アクションプラン」の進捗状況・・・・・・・・	15

1. 計画の概要

平成25年（2013年）12月に「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法（以下、「基本法」という。）」が公布・施行され、平成26年（2014年）には基本法に基づき、国土強靱化に関する国のほかの計画等の指針となる「国土強靱化基本計画（以下、「基本計画」という。）」が策定された。

県においても、南海トラフ地震をはじめとする大規模な自然災害から人命・財産と県民生活及び地域産業を守るとともに、社会経済活動の確実な維持等を図ることを目的として、平成28年（2016年）3月に「愛知県地域強靱化計画（以下、「県地域計画」という。）」が策定され、令和2年（2020年）3月に改訂されている。

そこで、本市においても、「基本計画」や「県地域計画」との調和を図りながら、国や県内市町村等関係者相互連携のもと、大規模な自然災害が起こった際に、機能不全に陥ることなく、いつまでも元気であり続ける「強靱な地域」をつくりあげるため、強靱化に関する指針となる「東海市地域強靱化計画」を令和元年（2019年）12月に策定し、令和3年（2021年）3月に改定した。

2. 計画推進の進捗管理

本市の強靱化を進めるためには、本計画に基づく施策を着実に推進していくことが重要である。

そこで、短期的・中期的に取り組む具体的な施策内容や進捗状況を把握するための指標を示した「東海市地域強靱化アクションプラン」を策定し、毎年度、各施策の進捗管理を行うものとする。

（1）施策ごとの不断の点検・改善（PDCAサイクルの実施）

本計画に位置付ける各施策の進捗状況を踏まえ、各所管課が中心となり、施策の見直しや改善等を行いながら事業を推進する。

このことから、本書において令和5年度（2023年度）の進捗状況をまとめたもの。

（2）施策ごとの進捗状況の評価

令和5年度（2023年度）の進捗状況の評価は、令和元年度（2019年度）の現状値を基準値として比較評価するものとした。

3. リスクシナリオごとの進捗状況

本計画では、本市の地域特性等を踏まえ、8つの「事前に備えるべき目標」と41の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」を設定している。重要業績指標（KPI）の令和5年度（2023年度）現状値及び成果動向は次のとおりとなっている。

目標1 直接死を最大限防ぐ

リスクシナリオ

1-1 住宅・建築物・交通施設等の複合的・大規模倒壊や不特定多数が集まる施設の倒壊による多数の死傷者の発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆住宅の耐震化率 [R1 基準値：86.2%、R5 目標値：95%、R10 目標値：95%]	89.5%	↗
◆無電柱化推進計画整備延長 [R1 基準値：L=0.0km、R5 目標値：L=1.2km、R10 目標値：L=2.7km]	L=0.0km	→

リスクシナリオ

1-2 密集市街地や不特定多数が集まる施設における大規模火災による多数の死傷者の発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆子ども、高齢者、障害者等が安全に移動できる道路が整備されていると思う人の割合 [R1 基準値：38.5%、R5 目標値：40%]	39.3%	↗
◆緑陽公園整備面積 [R1 基準値：0.8ha、R5 目標値：2.8ha、R10 目標値：8.8ha]	1.2ha	↗

リスクシナリオ

1-3 広域にわたる大規模津波等による多数の死傷者の発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆防災リーダー養成講座修了者数 [R1 基準値：244 人、R5 目標値：326 人、R10 目標値：426 人]	298 人	↗
◆雨水ポンプ場耐震化率(名和前、浅山、加家、元浜、伏見) [R1 基準値：25%、R5 目標値：63%、R10 目標値：88%]	63%	↗

リスクシナリオ

1-4 突発的又は広域かつ長期的な豪雨や高潮等の浸水による多数の死傷者の発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆ため池の耐震化 [R1 基準値：19 箇所、R5 目標値：28 箇所]	19 箇所	→
◆浸水ハザードマップ作成率（洪水・内水・高潮） [R1 基準値：33%、R5 目標値：66%、R10 目標値：100%]	66%	↗

リスクシナリオ

1-5 大規模な土砂災害等による死傷者の発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆土砂災害対応訓練の実施回数 [R1 基準：1 回/年、R5 目標：継続実施、R10 目標：継続実施]	1 回/年	↗
◆土砂災害避難確保計画の策定率 [R1 基準値：0%、R5 目標値：100%]	100%	↗

目標 2 救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する

リスクシナリオ

2-1 被災地での食料・飲料水・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の停止

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆食料備蓄量 [R1 基準値：135,000 食、R5 目標：継続確保、R10 目標：継続確保]	135,000 食	↗
◆耐震適合性のある管の割合（重要給水施設配水管路） [R1 基準値：48%、R5 目標値：59%、R10 目標値：90%]	60%	↗

リスクシナリオ

2-2 自衛隊、警察、消防、海保等の被災等による救助・救急活動等の絶対的不足

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆市民総合防災訓練の参加機関数 [R1 基準値：39 団体、R5 目標値：42 団体、R10 目標値：47 団体]	35 団体	↘
◆消防団員の条例定数充足率 [R1 基準値：98%、R5 目標値：100%、R10 目標値：100%]	90%	↘

リスクシナリオ

2-3 想定を超える大量の帰宅困難者の発生による混乱

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆徒歩帰宅支援ルートマップの改訂 [R1 基準：作成済み、R5 目標：改訂、R10 目標：改訂]	適宜更新	→
◆帰宅困難者等受入施設の検討 [R1 基準：検討中、R5 目標：施設の決定、R10 目標：備蓄物資の配備]	施設の整備	↗

リスクシナリオ

2-4 医療施設及び関係者の絶対的不足・被災、支援ルートの途絶、エネルギー供給の途絶による医療機能の麻痺

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆燃料供給事業者との協定締結数 [R1 基準値：0 件、R5 目標値：1 件、R10 目標値：2 件]	0 件	→
◆都市計画道路の整備率 [R1 基準値：87.5%、R5 目標値：89.3%、R10 目標値：92.2%]	88.4%	↗

リスクシナリオ

2-5 被災地における疾病・感染症等の大規模発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆感染症対策を踏まえた避難所運営訓練の実施割合（12 コミュニティ） [R1 基準値：33%、R5 目標値：41%、R10 目標値：100%]	83%	↗
◆災害支援看護職活動員登録者数 [R1 基準値：43 人、R5 目標値：45 人、R10 目標値：50 人]	65 人	↗

リスクシナリオ

2-6 劣悪な避難生活環境、不十分な健康管理による、多数の被災者の健康状態の悪化・死者の発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	成果動向
◆拠点・予備拠点避難所における避難所運営マニュアルの作成率 [R1 基準値：69%、R5 目標値：88%、R10 目標値：100%]	100%	↗
◆災害用トイレ整備数 [R1 基準値：25 基、R5 目標値：27 基]	54 基	↗
◆受援計画の策定 [R1 基準：未策定、R5 目標：策定完了、R10 目標：受援計画に基づく物流訓練の実施 1 回/年]	未策定 (策定中)	→

目標 3 必要不可欠な行政機能を確保する

リスクシナリオ

3-1 被災による警察機能の大幅な低下等による治安の悪化、社会の混乱

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆防災リーダー養成講座修了者数 [R1 基準値：244 人、R5 目標値：326 人、R10 目標値：426 人]	298 人	↗
◆講演会及び講話聴講者数 [R1 基準値：2,928 人/年、R5 目標値：4,000 人/年、R10 目標値：5,000 人/年]	1,332 人/年	↘

リスクシナリオ

3-2 地方行政機関の職員・施設等の被災による機能の大幅な低下

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆受援計画の策定 [R1 基準：未策定、R5 目標：策定完了、R10 目標：受援計画に基づく物流訓練の実施 1 回/年]	未策定 (策定中)	→
◆職員災害対応能力向上訓練の実施回数 [R1 基準：1 回/年、R5 目標：継続実施、R10 目標：継続実施]	2 回/年	↗

目標 4 必要不可欠な情報通信機能・情報サービスを確保する

リスクシナリオ

4-1 防災・災害対応に必要な通信インフラの麻痺・機能停止

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆燃料供給事業者との協定締結数 [R1 基準値：0 件、R5 目標値：1 件、R10 目標値：2 件]	0 件	→

リスクシナリオ

4-2 テレビ・ラジオ放送の中断等により災害情報が必要な者に伝達できない事態

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆拠点・予備拠点避難所における Wi-Fi 整備数 [R1 基準値：1/26 箇所、R5 目標値：26/26 箇所]	1/26 箇所	→

リスクシナリオ

4-3 災害時に活用する情報サービスが機能停止し、情報の収集・伝達ができず、避難行動や救助・支援が遅れる事態

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆多言語情報配信ツール導入状況 [R1 基準：未導入、R10 目標：導入完了]	一部導入	↗
◆市からの防災情報の入手方法を知っている人の割合 [R1 基準値：27.4%、R5 目標値：29.0%]	30.6%	↗

目標 5 経済活動を機能不全に陥らせない

リスクシナリオ

5-1 サプライチェーンの寸断等による企業の生産力低下による国際競争力の低下

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆民間企業が実施する防災講演会への講師派遣回数 [R1 基準値：1 回/年、R5 目標値：5 回/年、R10 目標値：10 回/年]	1 回/年	→
◆都市計画道路の整備率 [R1 基準値：87.5%、R5 目標値：89.3%、R10 目標値：92.2%]	88.4%	↗
◆無電柱化推進計画の整備延長 [R1 基準値：L=0.0km、R5 目標値：1.2km、R10 目標値：2.7km]	L=0.0km	→

リスクシナリオ

5-2 エネルギー供給の停止による、社会経済活動、サプライチェーンの維持への甚大な影響

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆石油コンビナート防災訓練の実施回数 [R1 基準：1 回/年、R5 目標：継続実施、R10 目標：継続実施]	1 回/年	↗

リスクシナリオ

5-3 コンビナート・重要な産業施設の損壊、火災、爆発等

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆臨海企業意見交換会の実施回数 [R1 基準：1 回/年、R5 目標：継続実施、R10 目標：継続実施]	1 回/年	↗

リスクシナリオ

5-4 基幹的陸上海上交通ネットワークの機能停止

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆都市計画道路の整備率 [R1 基準値:87.5%、R5 目標値:89.3%、R10 目標値:92.2%]	88.4%	↗
◆無電柱化推進計画の整備延長 [R1 基準値:L=0.0km、R5 目標値:1.2km、R10 目標値:2.7km]	L=0.0km	→

リスクシナリオ

5-5 金融サービス等の機能停止により商取引に甚大な影響が発生する事態

金融機関等を対象としているリスクシナリオ及び施策のため、現状では重要業績指標（KPI）を設定していない。

リスクシナリオ

5-6 食料等の安定供給の停滞

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆都市計画道路の整備率 [R1 基準値:87.5%、R5 目標値:89.3%、R10 目標値:92.2%]	88.4%	↗

リスクシナリオ

5-7 異常渇水等による用水供給途絶に伴う、生産活動への甚大な影響

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆耐震適合性がある管の割合（重要給水施設配水管路） [R1 基準値：48%、R5 目標値：59%、R10 目標値：90%]	60%	↗

目標 6 ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる

リスクシナリオ

6-1 電力供給ネットワーク（発電所、送配電設備）や都市ガス供給、石油・LPガスサプライチェーン等の長期間にわたる機能の停止

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆受援計画の策定 [R1 基準：未策定、R5 目標：策定完了、R10 目標：受援計画に基づく物流訓練の実施1回/年]	未策定 (策定中)	→

リスクシナリオ

6-2 上水道等の長期間にわたる機能停止

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆耐震適合性がある管の割合（重要給水施設配水管路） [R1 基準値：48%、R5 目標値：59%、R10 目標値：90%]	60%	↗

リスクシナリオ

6-3 汚水処理施設等の長期間にわたる機能停止

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆東海市浄化センター長寿命化率 [R1 基準値：34%、R5 目標値：94%、R10 目標値：100%]	56%	↗

リスクシナリオ

6-4 基幹的交通から地域交通網まで、陸・海・空の交通インフラの長期間にわたる機能停止

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆都市計画道路の整備率 [R1 基準値:87.5%、R5 目標値:89.3%、R10 目標値:92.2%]	88.4%	↗
◆耐震補強した橋りょうの割合 [R1 基準値：42.9%、R5 目標値：46.5%、R10 目標値：50%]	44.9%	↗
◆浸水ハザードマップ作成率（洪水・内水・高潮） [R1 基準値：33%、R5 目標値：66%、R10 目標値：100%]	66%	↗

リスクシナリオ

6-5 防災インフラの長期間にわたる機能不全

主に国・県・民間等を対象としているリスクシナリオ及び施策のため、現状では重要業績指標（KPI）を設定していない。

目標 7 制御不能な複合災害・二次災害を発生させない

リスクシナリオ

7-1 地震に伴う市街地の大規模火災の発生による多数の死傷者の発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆防火水槽の耐震化率 [R1 基準値:24.4%、R5 目標値:28.3%、R10 目標値:32.3%]	43.9%	↗

◆消防団員の条例定数充足率 [R1 基準値：98%、R5 目標値：100%、R10 目標値：100%]	90%	↘
--	-----	---

リスクシナリオ

7-2 海上・臨海部の広域複合災害の発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆耐震補強した橋りょうの割合 [現状値：42.9%、R5 目標値：46.5%、R10 目標値：50%]	44.9%	↗

リスクシナリオ

7-3 沿線・沿道の建築物倒壊に伴う閉塞、地下構造物の倒壊等に伴う陥没による交通麻痺

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆緊急輸送道路沿いの耐震性のない建築物棟数 [R1 基準値：71 棟、R5 目標値：64 棟、R10 目標値：58 棟]	64 棟	↗

リスクシナリオ

7-4 排水機場等の防災施設、ため池等の損壊・機能不全や堆積した土砂の流出による多数の死傷者の発生

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆ため池耐震調査の実施件数 [R1 基準値：17 箇所、R5 目標値：28 箇所]	17 箇所	→
◆雨水ポンプ場長寿命化率 [R1 基準値：0%、R5 目標値：63%、R10 目標値：88%]	25%	↗

リスクシナリオ

7-5 有害物質の大規模拡散・流出

主に県・民間等を対象としているリスクシナリオ及び施策のため、現状では重要業績指標（KPI）を設定していない。

リスクシナリオ

7-6 農地・森林等の荒廃による被害の拡大

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆農地の有効利用率 [R1 基準値:96.4%、R5 目標値:98.5%、R10 目標値:99.0%]	95.0%	↘

目標 8 社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する

リスクシナリオ

8-1 大量に発生する災害廃棄物の処理の停滞により復興が大幅に遅れる事態

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆ごみ焼却施設等の建設 [R1 基準：ごみ焼却施設等の設計・検討、R5 目標：ごみ焼却施設等の建設（完成）]	ごみ焼却施設の 建設工事	↗

リスクシナリオ

8-2 復興を支える人材等（専門家、コーディネーター、労働者、地域に精通した技術者等）の不足、より良い復興に向けたビジョンの欠如等により復興できなくなる事態

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆市職員の応急危険度判定士登録者数 [R1 基準値：131 人、R5 目標値：143 人、R10 目標値：158 人]	148 人	↗
◆防災リーダー養成講座修了者数 [R1 基準値：244 人、R5 目標値：326 人、R10 目標値：426 人]	298 人	↗

リスクシナリオ

8-3 広域地盤沈下等による広域・長期にわたる浸水被害の発生により復興が大幅に遅れる事態

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆耐震性のある汚水・雨水管渠の整備普及率 [R1 基準値：86%、R5 目標値：93%、R10 目標値：97%]	87%	↗

リスクシナリオ

8-4 被災者の住居確保等の遅延による生活再建の遅れ

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆応急仮設住宅用地確保戸数 [R1 基準値：727 戸、R5 目標値：863 戸]	754 戸	↗
◆市職員の応急危険度判定士登録者数 [R1 基準値：131 人、R5 目標値：143 人、R10 目標値：158 人]	148 人	↗

リスクシナリオ

8-5 貴重な文化財や環境的資産の喪失、地域コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・損失

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆一時避難所指定数 [R1 基準値：9 箇所、R5 目標値：10 箇所、R10 目標値：11 箇所]	9 箇所	→
◆コミュニティや町内会等の地域行事や活動又は市民活動に参加している人の割合 [R1 基準値：41.8%、R5 目標値：44%]	38.8%	↘

リスクシナリオ

8-6 事業用地の確保、仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる事態

重要業績指標（KPI）	R5 現状値	進捗状況
◆地籍調査面積 [R1 基準値：0ha、R5 目標値：9ha、R10 目標値：64ha]	9ha	↗

リスクシナリオ

8-7 国際的風評被害や信用不安、生産力の回復の遅れ、大量の失業・倒産等による国家経済への甚大な影響

主に国・県・民間等を対象としたリスクシナリオ及び施策の内容であること、また、市がリスクシナリオ及び施策に関する指標を管理していないことから、現状では重要業績指標（KPI）は設定していない。

4. 「東海市地域強靱化アクションプラン」の進捗状況

強靱化計画における「事前に備えるべき目標」及び「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」ごとに施策（アクション）を整理し、掲載する。施策（アクション）は、強靱化計画における推進方針を実現するために実施する具体的な取り組みを示すものであり、概要を示すとともに、進捗状況を把握するために指標とその現状値・目標値を示している。

「東海市地域強靱化アクションプラン」で設定された425の指標（重複する指標を含む。）について、基準値である令和元年度（2019年度）と令和5年度（2023年度）の現状値を比較評価したもの。

指標ごとの動向は次のとおりとなっている。

進捗状況	指標の変化			
	令和5年度（2023年度）		【参考】 令和4年度（2022年度）	
順調	272指標	64%	227指標	54%
横ばい	109指標	26%	134指標	32%
順調でない	44指標	10%	64指標	14%
計	425指標	100%	425指標	100%

数値が順調な指標は、272指標で全体の64%、数値が横ばいの指標は、109指標で全体の26%、数値が順調でない指標は、44指標で全体の10%となっている。（重複する指標を含む。）令和4年度（2022年度）の現状値と比べて進捗状況が順調と評価できる指標は45指標増加した。

また、継続実施の指標を除き、令和5年度（2023年度）目標値に対しては、「南海トラフ地震臨時情報対応マニュアルの作成」はじめ105指標（重複する指標を含む。）が目標値を達成した。更に令和10年度（2028年度）目標値も達成した指標は、「災害支援看護職活動員登録者数」はじめ14指標（重複する指標を含む。）となっている。

5. 「東海市地域強靱化アクションプラン」進捗状況の考察

「東海市地域強靱化アクションプラン」で設定された425の指標（重複する指標を含む。）について、基準値である令和元年度（2019年度）と令和5年度（2023年度）の現状値を比較評価したもののうち主なものについて考察する。

リスクシナリオ1－3「広域にわたる大規模津波等による多数の死傷者の発生」の、6「排水機場等の耐震化」に係る「雨水ポンプ場耐震化率（名和前、浅山、加家、元浜、伏見）」の指標は、元浜第1ポンプ場、元浜第2ポンプ場の耐震化工事を計画的に実施できていることから、基準値に対して、38ポイント増加し、事前に備えるべき目標である「直接死を最大限に防ぐこと」に寄与できていると考える。

リスクシナリオ2－4「医療施設及び関係者の絶対的不足・被災、支援ルートの途絶、エネルギー供給の途絶による医療機能の麻痺」の、7「道路の防災性強化」に係る「都市計画道路の整備率」の指標は、都市計画道路名古屋半田線の市内全線開通により、基準値に対して、0.9ポイント増加し、救助・救急、医療活動等が迅速に行える基盤づくりが着実に進められていると評価した。

リスクシナリオ2－5「被災地における疾病・感染症等の大規模発生」の、2「避難所の衛生環境の確保」に係る「感染症対策を踏まえた避難所運営訓練の実施割合（12コミュニティ）」の指標は、感染症対策に配慮した避難所運営に関する訓練を実施したコミュニティが増えたことから、基準値に対して、50ポイント増加し、避難生活の環境確保について、地域住民の意識を向上させ、感染症拡大防止への備えができていると評価した。

リスクシナリオ4－3「災害時に活用する情報サービスが機能停止し、情報の収集・伝達ができず、避難行動や救助・支援が遅れる事態」の、2「情報発信体制の強化・手段の多重化」に係る「市からの防災情報の入手方法を知っている人の割合」の指標は、全戸配布した防災ハンドブックに記載している、「防災情報の入手方法」とおり、ここ数年で情報伝達手段の多様化に関する整備を進められたため、基準値に対して、3.2ポイント増加し、「必要不可欠な情報通信機能・情報サービスを確保する」に寄与していると評価した。

その一方で、リスクシナリオ3－1「被災による警察機能の大幅な低下等による治安の悪化、社会の混乱」の、2「地域コミュニティ力の強化に向けた支援」に係る「講演会及び講話聴講者数」の指標が、近年、本市において災害が少ないことによる防災

への関心が低下していることと考えられ、基準値に対して、1,596人減少したことにより、「順調でない」と評価した。しかし、令和5年（2023年）5月からは、新型コロナウイルス感染症による制限がなくなり、防災講話等が昨年度より多く実施できており、引き続き評価の改善に向けて防災に関する事業での啓発に幅広く努めていく。

全体を通して、令和5年度（2023年度）の目標値を達成しているものが多くあったが、達成できないものもあったため、今年度の改定では、指標や目標値を見直し、新たな目標に向かって、引き続き粘り強く事業に取り組む必要がある。